

[AMANI] とは
スワヒリ語で「平和」

2004年12月

AMANI

MERRY CHRISTMAS

市橋隆雄、さら
ハンナ、誉主有、
栄麗也、リベカ、ノア

ケニアのナイロビより、クリスマスのご挨拶をいたします。

この1年も皆様の歩みが神様の守りのうちにあり、新しい年も祝福の一年となりますようお祈りいたします。

私達家族は、今年も7人が一緒にナイロビで生活しました。皆様のお祈りと支えによって1年を守られましたことを、心より感謝致します。今年は、夏に、さら、ハンナ、ヨシュアそしてリベカが日本へ行きそれぞれに良い体験をすることができました。特に多くの新しい出会いが与えられたことは大きな恵みでした。新たに、遠いアフリカにいる私達家族を覚えて、支援の輪に加わって下さった方々にお礼申し上げます。

コイノニア幼稚園

今年は新たに15人の子供たちを迎え26人でスタートしました。残念なことは昨年入園したコイノニア最初のグループの子供たちのうち5人が家庭の事情で幼稚園を続けられませんでした。

両親が分かれたためにほかのスラムへ母親と移っていったジョージ、母親から捨てられ、家族の中をたらいまわしにされ最後に叔母さんに引き取られたブリジット、他の学校へ移った子供たち。しかし10人が幼稚園を卒園し、小学校へ進級します。



開園当初から子供たちにかかわってきたキゴエ先生の深い愛と努力が子供たちを変えました。新しく小学校の先生となるムラグリ先生はキューナ幼稚園で5年間教えた先生です。大学を出て小、中、高の先生の資格がある彼女は、あえて幼稚園の先生の道を選んだ人です。ムラグリ先生は、コイノニアで小学校の先生となることは自分に与えられた使命だと思いと語り、この4ヶ月準備に励んできました。コイノニアは、このように献身的な先生達アシスタントに恵まれ歩んでこられたのです。クリスマスを多くの支援者、父母と共に祝い、1年を締めくくりました。



キューナ幼稚園、

開園して8年が過ぎました。30人のスタッフの内、12人が勤続8年から5年以上です。スタッフの充実が教育内容の充実につながり、良い伝統ができつつあります。特に今年は年長クラスの内容の充実に力を入れました。また、父母達にキューナのユニークな教育内容をより深く理解してもらうことのできた年でした。

コイノニアに対する理解も少しずつ深まり、スポンサーになってくださる父母も増えてきました。

キューナ教会

礼拝の音楽が豊かにされてきました。スワヒリ語の讃美や、メンバーが与えられているタラントを生かして歌ったり、演奏したりと楽しい礼拝をしています。伝道の前進が来年の課題です。

キッズクラブ

日本人学校から中学生が先生と共に訪れ、理科の実験や、工作などの楽しいプログラムをしてくださいました。キバガレスラムの子どもたちにとっては、初めての体験でとてもエキサイティングでした。また、日本人学校の子供たちにとっても、企画準備から、必要経費の捻出まで責任をとり、ボランティアの経験をしました。私達の願うコイノニアの姿がここにありました。

サンプル援助

ケニヤ北部のサンプル族の部落に協力援助をしてきましたが、3年目になり、やっと地元の牧師夫妻の努力が実り始めました。教会のメンバーが率先してが貧困と病の原因となっていた部族の伝統や習慣を変えつつ、新しい試みを始めています。新しい形の家、自給自足を目指しての野菜栽培。キューナ教会からも牧師だけでなく、スラムの青年達がサンプルを訪れ、厳しい環境の中で生きる人々の生き様に触れて、励ましを受ける経験をしました。一番の喜びは、収穫された豆を見ることができたことです。まだまだ100%自然に頼っていますから、収穫は多くは望めないのですが、努力が少しずつ報われています。

さらの日本訪問

友人達の助けを得て、2ヶ月間に様々な学校、幼稚園、教会を訪問させていただきました。新しい出会いの中で、私達家族やケニヤでの働きを知っていただき、多くの励ましをいただきました。

また、不思議な出会いから、これまでの私達の歩みを著書「赤道の国で出会ったもの」としてまとめる機会を与えられました。

家族の一年

隆雄：教会での働きに加え、キューナ幼稚園、コイノニア幼稚園で体育を教え、今年は、ケニヤのテニス・ジュニア代表チームのコーチや、ランチタイムにビジネスマン達に健康のためのトレーニングを指導しました。

さら：日本の幼稚園や学校を訪問し、信念を持って教育に当たられる校長先生、園長先生のお話、先生方との交わりを通し刺激を受け多くを学びました。早速キューナとコイノニア幼稚園の保育に取り入れて役立てています。

ハンナ（20歳）：1年間コイノニア幼稚園で、英語の読み書きを子供たちに教えました。担任の先生と共に一人一人の子ども達の成長を見守り多くの喜びを体験しました。また、通信教育で大学の勉強を続けることができました。夏には日本に3ヶ月滞在し、色々な経験をしました。

ヨシュア（17歳）：高校生活最後の一年になりました。日本では、関東学院での体験入学が許され、日本の同年代の友だちができ、「ボクは初めて自分が日本人だと思った」と言う経験をしました。何よりも大好きなラグビーを思い切りすることができ、本当にラッキーな夏休みを過ごしました。10月末に、サッカーの試合で、相手に足を強くけられて複雑骨折をし、手術を受け6週間後には、キズの内側に感染が起り再度手術を受けることになり、つらい年末になりました。

しかし、全ての経験は、来年は家族を離れて大学へ進む彼のために、神さまが与えた訓練の時と信じています。

エリヤ（15歳）：3月から3ヶ月彼は陸上競技に挑みました。ナイロビの大会で走るたびに彼は自分の記録を更新しつづけました。そして、ナイロビにあるインターナショナルスクールの大きな陸上大会では、100、200メートルで見事金メダルを取ったのです。いつからこんなに早く走るようになったのか家族の皆も驚きでした。一年を通して身体を鍛え次のシーズンを待っています。

リベカ（9歳）：1年間に15センチ背が伸び、もうすぐママを越えそうです。急に女の子らしくなってきた、パパが心配しています。物語や詩を書くことが大好きです。10月から2年半ぶりにピアノを習い始めました。歌も上手だからと先生に励まされてならい始めました。

ノア（8歳）：勉強で苦労した1年でしたが、良い先生に恵まれ、楽しい学校生活を送ることができました。最近では自転車、ローラーブレード、スケートボードでアクロバットの練習中です。



これからもケニヤでの活動を継続していけるために皆様のご支援をお願い致します。

市橋家族への支援 東京三菱銀行 品川駅前支店 普通預金 4453534 市橋隆雄
プロジェクトへの支援 郵便振込み：記号00190-9 番号740560 アフリカ宣教会
住所 Takao & Sara Ichihashi

P.O.Box 772 Village Market 00621 Nairobi Kenya Tel 254 -20- 582756

e-mail ichihashi@nbi.ispkenya.com HP <http://www.kdn.ne.jp/~amani/>